

総合開発計画 策定特別委員会

調査報告

●道路計画策定については、次の柱を重点に計画をすべきとの結論を得ました。

- ①県道掛川浜岡御前崎線バイパスの整備促進(県道・市道)
 - ②新市庁舎と支所を結ぶシンボル道路の整備(御前崎地区・白羽地区を經由し白羽牧之原線、佐倉東西線を結ぶ路線及び大山東町線と合戸207号線を結ぶ路線を整備し主要幹線とする)
 - ③地震・津波対策としての防災道路の整備(太平洋側から高台・港から高台)
 - ④静岡空港、東名高速道路等への接続幹線の整備(中心市街地から朝比奈を經由して473号線へ接続する幹線道路、中心市街地から比木を經由して150号バイパスへ接続する県道相良浜岡線、西部線から新野を經由して東名高速道路へ接続する幹線道路)
 - ⑤大規模農道の県道昇格を推進要望する。
- 港湾の利用促進については、次のような結論を得ました。
- ①重要港湾として機能するために護岸・防波堤等の整備を強力に推進すること。
 - ②港湾関連企業誘致の環境整備として固定資産税、電気料金などの助成を図るべきである。
 - ③市場調査として輸出入関連企業の調査を市独自で行うべきである。
 - ④ポートセールスを強力に推進すべきである。
- 都市計画(下水道)については、次のような結論を得ました。
- ①都市計画用途区域(池新田地区)の見直しを行うべきである。
 - ②御前崎地区の汚水処理は合併処理浄化槽の設置と下水道事業を組み合わせる中で整備推進すべきである。

原子力対策 特別委員会

調査研究報告

原子力対策特別委員会は、「浜岡原子力発電所の高経年化の調査・研究」「核燃料サイクルの調査・研究」「使用済み核燃料税の調査・研究」を基本的な柱とし、これまで現地調査を含め8回の会議を行って参りました。昨年6月には経済産業省の江越大臣官房参事官、9月には同じく野口大臣官房参事官を招き、「国の原子力政策について」「核燃料サイクルについて」講演をいただき、12月には原子力安全保安院の佐藤氏から「MOX燃料の安全性について」説明を受けております。

また、昨年11月には、福井県的美浜町と高浜町をそれぞれ視察し、関西電力(株)美浜原子力発電所3号機の事故における行政対応とプルサーマル実施への取り組みについて研修いたしました。

中部電力(株)浜岡原子力発電所においては、4号機のコンクリート強度や減肉管理の状況、使用済み燃料の保管状況等の立ち入り調査を実施いたしました。

いずれにいたしましても原子力発電所の安全性の確保と電源立地に伴う財源の有効活用は、市民の最も関心の高いところであり、当市における永遠のテーマであります。

原子力を取り巻く様々な問題は、長期的な視野に立つて調査研究する必要もあり、現時点、報告書をまとめる段階にはありませんが、経済産業省資源エネルギー庁、中部経済産業局、原子力安全保安院等々のご理解とご協力をいただく中で、委員会として実りある調査研究報告ができますよう、今後とも努力することをお約束し、委員長報告とさせていただきます。